

インターバンクの声（2013年5月2日）

97円台の円相場を保っていられるのも、この先さほど長い時間ではないような気がしてきた。

4月16日の朝、前日に中国の第1・四半期GDPの伸び率の大幅な低下に世界景気の後退が意識された中、米ボストン・マラソンでの爆破テロのニュースでドルが急落した際の、下ひげ部分を除いたボックス部分の安値である97円とび台を意識した踏ん張りに見える展開だ。米連邦公開市場委員会（FOMC）で、緩和政策の維持が発表される中、景気の動向に応じ資産買い入れの拡大だけでなく縮小の用意もあるとの表明があったことにも救われたようだ。

やはり96円台への積極的な円買いは、金曜日の米雇用統計の結果を確認してからなのだろうか。昨日のADP雇用統計も予想を下回り、さらに前月分の下方修正もあった。4月のISM製造業景況指数も予想を下回り、個別の内容でも雇用の落ち込みが最も影響したことが確認できた。市場のバイアスは明らかにドル売りになっているようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。